

説明会での主な質問及び回答等

令和8年2月4日、8日に開催しましたオープンハウス型説明会で、来場者の皆さまからいただいた質問等と回答をお知らせします。

開催場所（開催日）：カルッツかわさき 中会議室（令和8年2月4日）

川崎市役所本庁舎 2階ホール（令和8年2月8日）

（質問）京急川崎（大）第2踏切について、一日でも早く立体交差化してほしい。

（回答）自動車交通量が多く、対策の必要性が高い京急川崎（大）第2踏切については、踏切部分の鉄道を地下化することで、国道409号と京浜急行大師線とを立体交差化する「鉄道アンダー案」の検討を行っております。

鉄道アンダー案の計画区間は、沿線に家屋が連担していること、多摩川に近接していることなどから、事業実施に向けて、関係機関との協議・調整を進めるとともに、沿線地域に対し、想定される影響と対策等について説明し、治水安全性の確保や沿線地域への影響の低減が図られた計画となるよう検討を進めてまいります。

実施時期につきましては、平成31年に、京浜急行大師線連続立体交差事業1期②区間（川崎大師駅～東門前駅間・鈴木町すり付け）の工事完成後に、京急川崎（大）第2踏切の立体交差化の工事に着手するスケジュールを公表しております。

国道409号と京浜急行大師線との立体交差化については、先ず、川崎大師駅まわりの踏切において、令和8年度の工事着手を目指しているところをごさいますて、京急川崎（大）第2踏切についても、早期の国道409号の交通円滑化を目指し、鉄道アンダー案に係る各種検討など、取組を進めてまいります。

（質問）鉄道アンダー案の整備後における鉄道の騒音が大きくないか心配である。現在も、鉄道の騒音がうるさいため、これ以上騒音が大きくならないようにしてほしい。

（回答）京浜急行大師線連続立体交差事業において、これまでに行った防音対策の効果や、他の防音対策の事例などを参考にして、現状よりも騒音が大きくならないよう防音対策を講じてまいります。

(質問) 鉄道アンダー案の整備後の浸水防止壁の高さが心配である。浸水防止壁を設置することにより、周辺の景観が暗くなるのか気になる。

(回答) 事業実施に向けた検討及び関係機関との協議・調整を進め、沿線地域への影響の低減が図られた計画となるよう検討してまいります。

(質問) 洪水や地震など様々な災害を考えると心配である。河川に近接するため、鉄道アンダー案については、堤防へ影響が生じないようにするなど、治水の観点を中心に整備してほしい。

(回答) 事業実施に向け、堤防への影響や災害時の対応などについて、河川管理者や鉄道事業者などと協議・調整を進め、治水安全性の確保や沿線地域への影響の低減が図られた計画となるよう検討してまいります。

(質問) 京急川崎（大）第2踏切の除却後、踏切があった場所に信号機や横断歩道は設置されるか。

(回答) 今後、鉄道アンダー案による事業実施に向けた検討及び関係機関との協議・調整を進める中で、信号機の設置状況や横断歩道の利用状況などについても調査・検討し、交通管理者と協議・調整してまいります。

(意見) 鉄道アンダー案の事業着手までに、まちづくりの効果や防災の観点についても検討してほしい。

(回答) 事業実施に向け、今回の説明会やアンケートでいただいたご意見をもとに、まちづくりの効果や防災の観点を含め、様々な検討を進めてまいります。

(質問) 川崎駅周辺の再開発など、周辺で常に工事が続くエリアである。騒音・振動など住環境への影響に配慮してほしい。

(回答) 鉄道アンダー案については、営業している現在線の直下に鉄道構造物をつくることから、工事が主に夜間となり、夜間の騒音・振動の発生が想定されるため、工事の実施にあたりましては、使用機械の選定や工法に配慮し、沿線地域への影響の低減が図られた計画となるよう検討してまいります。

(質問) 京急川崎（大）第1踏切は、踏切内の片側しか歩道がないため、両側に歩道を作ってほしい。

(回答) 京急川崎（大）第1踏切、港町第1踏切、港町第3踏切については、短・中期的な取組として、踏切の利用状況を踏まえ、安全・安心につながる踏切対策の実施に向けて取り組んでまいります。

歩行者と自動車の通る空間を分けることも、対策の一つと考えておりますので、安全性向上のための取組の具体的なご意見として、参考にさせていただきます。

(質問) 京急川崎(大)第1踏切は、マンションが新しく建ってからビル風が強くなり危険なため、自転車を降りて横断している。地下化されるとより風が強くなりそうで不安である。

(回答) 踏切対策の実施に向けた検討の参考にさせていただきます。

(質問) 港町第1踏切は、小学生や幼児も通行が多いと思うので、安全対策を実施してほしい。

(回答) 安全性向上のための取組の実現に向けた踏切利用状況に関する具体的な意見として、参考とさせていただきます。

(質問) 京浜急行大師線連続立体交差事業2期区間の別線ルートは、復活しないのか。

(回答) 京浜急行大師線連続立体交差事業2期区間の別線ルートについては、平成29年度に事業中止といたしました。

京浜急行大師線連続立体交差事業2期区間の別線ルートは、川崎縦貫道路との一体的な整備や、新設路線との相互直通運転を可能とする構想でしたが、これらの実現が困難な状況でございますことから、2期区間については、現在線に残される4つの踏切について、連続立体交差事業の代替となる新たな踏切対策を実施してまいりたいと考えております。

(質問) 京浜急行大師線連続立体交差事業1期②区間(川崎大師駅~東門前駅間・鈴木町すり付け)について、再び立ち止まることなく、一日も早く踏切を除却してほしい。

(回答) 京浜急行大師線連続立体交差事業1期②区間については、令和19年度の地下化切替、令和20年度の工事完成を目指し、取組を進めてまいります。